

年 組 名前:

子猫 一時保護へプレハブ



山本 昂輝



設置された保護猫用のプレハブ＝甲府市健康支援センター

市、寄付受け設置 譲渡機会拡大へ

甲府市は、同市相生2丁目の市健康支援センター東側に、飼い主のいない子猫を一時保護するプレハブを設置した。太陽光パネルとバッテリーを装備し自家発電できるプレハブで、保護環境を充実させ、譲渡機会

の拡大を図る。バッテリーは可動式で、災害時に非常電源としても活用する。プレハブは、自動車の解体や販売などを手がけるモギー（宮城県、茂木宏社長）が企業版ふるさと納税制度を活用して寄付した。広さ13平方メートル程度で太陽光パネルを搭載し、エアコンと照明を完備している。屋外に、電気自動車から取り外したりチウムイオン電池を再利用して製作したポータブル電源2台を備え付けている。電力量は1台10結時。同社は研究者から技術指導を受け、今回のプレハブを開発した。市での設置が実用化の第1号という。

市保健所は2024年度、2月末までに42匹の子猫を一時保護した。従来は簡易的な施設で保護し、猫は譲渡ボランティアなどに

引き渡していた。今後はプレハブを活用し、獣医師が猫の簡易的な診察やワクチン接種などを行い、ボランティアの負担軽減や譲渡機会の拡大につなげる。3月28日に市役所南庁舎で受納式が行われ、茂木社長は「（プレハブは）地球環境を守ることにつながる仕組み。甲府から全国に発信してほしい」とあいさつした。同社は現金8万円も寄付。市はプレハブ設置に伴う建築確認申請費用に充てた。

〈杉原みずき〉

(2025 年 4 月 1 日付 山梨日日新聞 21 面)

問1

甲府市の市健康支援センター東側に設置したプレハブは、何をするためのものですか。

.....

問2

このプレハブには、どのような機器が設置されていますか。

.....

問3

今後はこのプレハブを、どのように利用して、なにに繋がたいとしていますか。

どのような利用:

繋 げる こと: